

聞いてみました
はくラボのミュージアムグッズ愛好家ー01

もり・ゆみこ
森 裕美子 さん
理科ハウス館長

2019年5月16日
リニューアルオープン！
理科ハウス - 世界一小さな科学館 -
神奈川県逗子市池子 2-4-8
www.licahouse.com

大阪自然史センターの虫へんTシャツ、鳥へんTシャツをはじめて仕入れたのは、2008年4月、理科ハウス開館の一カ月前のことです。「このオリジナル商品は人気があるよ」と教えてくれたのは大阪市立科学館の渡部義弥さんでした。

理科ハウスは助成金をもらわないで運営する私設の科学館なので、ショッップの利益が頼りです。Tシャツはコンスタントに売れていてとても助かります。Tシャツ以外にも新商品が出ると「これはきっと売れる！」と思って仕入れをしています、やはり人気があるのは漢字がいっぱいデザインされたこの二種のTシャツです。外国に行くという人が、「外国の人は漢字が好きだからプレゼントに持っていくの」とか、児童館で仕事をしている人が「このシャツを着ていると子どもが寄ってくるの」とか嬉しそうに話してくれました。

ミュージアムグッズを通して人がつながっていくのを見るのは楽しいです。科学が身近なものになるには、科学で使われる言葉や記号がいつも目に触れる場所にあることが近道だと思うので、ミュージアムグッズにはその役割が大きいと信じています。



細々と商品の卸を開始した頃に
卸先第一号になってくださった理科ハウスさん。
元素周期表Tシャツは私も愛用しています！
(スタッフK)

理科ハウスオリジナルグッズ
元素周期表Tシャツ(黒・Nh)

Q&A
誰がやってるの？
自然史博物館のミュージアムショップ



Shop Infomation

大阪市立自然史博物館ミュージアムショップ
(花と緑と自然の情報センター1階)

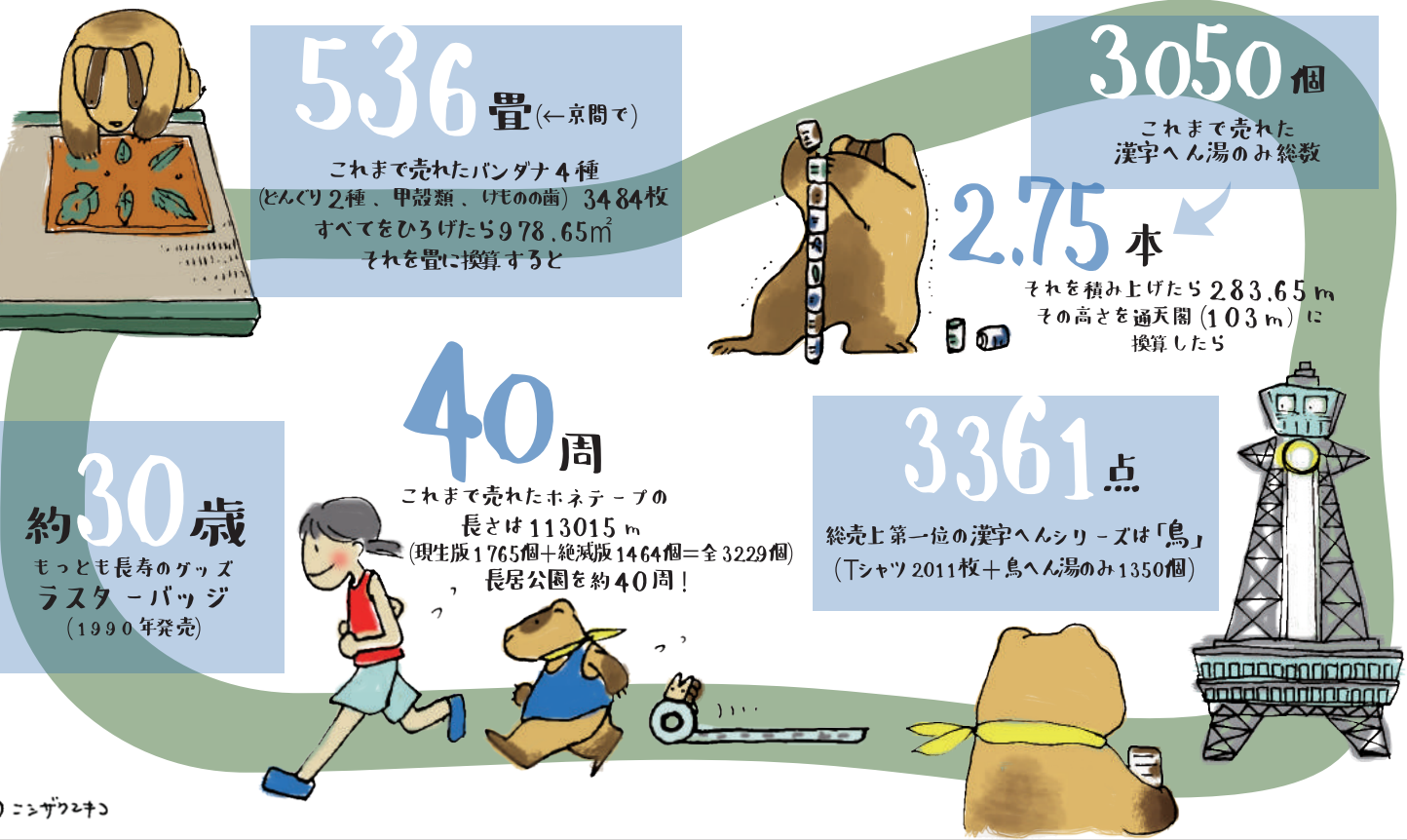
営業時間：9:30～17:00 (11月～2月は16:30まで)
定休日：月曜日(休日の場合はその翌日)、年末年始

ネットショップ：
omnh-shop.ocnk.net
facebook：www.facebook.com/omnhshop
twitter：@omnh_museumshop

大阪市立自然史博物館
www.mus-nh.city.osaka.jp



数字でみるミュージアムグッズ



© コンザワニ

大阪自然史センターの活動を応援してください

自然を見つめ、自然から学び、自然を楽しく伝え、
自然を大切に思う気持ちを育む
私たち大阪自然史センターの活動を応援してください

郵便振替で寄付する
口座番号 00980-1-317961

加入者名 特定非営利活動法人 大阪自然史センター

クレジットカードでのご寄付はこちら
syncable.biz/associate/hakurabo/ ▶

ご寄付に関する詳細は下記のWEBサイトをご覧ください。
www.omnh.net/npo/support/donation.html



大阪自然史センターは、2014年3月31日に大阪市から認定
NPO法人の認定を受けました。認定NPO法人である大阪
自然史センターへのご寄付は、税制優遇の対象となります。

企業や団体の方へ

大阪自然史センターはさまざまな企業や団体と連携して活動を進めています。
コラボレート企画やデザインのご依頼、ご寄付・CSR活動など、お気軽に
お問合せください。

編集後記

表紙のラスターバッジの数々は、本当にほんの一部。博物館を訪れた子どもたちが、自分のお小遣いで手にすることができるミュージアムグッズとして誕生したバッジの歴史は計り知れません。掲載したいエピソードがたくさんみつかりましたが、これはきっとまた、別号でご紹介させていただきます(川上)
グッズの企画制作から販売までを担当して早8年。載せたいものがありすぎて、選ぶのに苦労しました…(池内)
学会やイベントの行商担当です。語りだしたら止まらない珠玉のうちのグッズたち、どこかでぜひ手に取って！(西澤)



表紙の
撮影風景

はくラボ

認定特定非営利活動法人 大阪自然史センター

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園 1-23 大阪市立自然史博物館内
電話 06-6697-6262 FAX 06-6697-6306 www.omnh.net/npo



www.facebook.com/naturalhistory.center



このパンフレットは環境に配慮したベジタブルオイルインクを使用しています。

はくラボ通信 Vol.3

認定特定非営利活動法人 大阪自然史センター
2019年4月発行

編集スタッフ：川上和歌子、池内美絵、西澤真樹子
デザイン：橘高加奈子

はくラボ 通信 Vol.3

～何やってるの？活動しようかい～

こんなにつくっていました 大阪市立自然史博物館とともに歩んだ ミュージアムグッズの30年

廊下の立ち話から生まれる商品企画。自然史博物館友の会会報誌「Nature Study」のバックナンバーをめくってみても、今とかわらぬ商品企画愛に満ちた当時の記事を見つけることができます。「お揃いのグッズを身につけて自然観察に出かける」そんな目的から企画をスタートさせたミュージアムグッズはいっしょに、自然とのつながりを広げ、深める手助けとなり、よりよい博物館体験を持ちかえるために、なくてはならない存在になりました。博物館と博物館をとりまく人々を夢中にさせてきたミュージアムグッズの数々。そのレパートリーをながめていきます。(川上和歌子)

はくぶつかんとコラボ＝「はくラボ」

はくラボ

「はくラボ」は、博物館との
さまざまなコラボレーションで
自然と市民をつなぐNPO法人でありたい
私たち大阪自然史センターの愛称です

